

第2分科会 最終報告資料

テーマ：子育て・教育・生涯学習

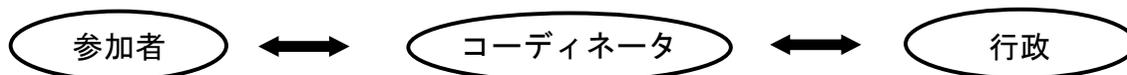
★八街市協働のまちづくり行動理念

- ・標語： 市民と地域の絆を深め、安心して子育てができる、**パパ・ママ応援都市**を目指そう！
- ・標語： 子どもから高齢者まで、全ての市民が楽しく生涯学習ができる、**教育都市**を目指そう！
- ・標語： 地域・家庭・学校・行政の連携を深め、斬新で一步進んだ**教育支援都市**を目指そう！
- ・標語： 未来を担う子ども達の健やかな成長を願い、地域と行政が一体となった**共育都市**を目指そう！
- ・標語： ふれあい・助け合いを大切にし、出会い・発見・感動ができる、**住みよい都市**を目指そう！
- ・標語： 地域の資源を大切に、誰もが生き生きと豊かに暮らせる、**人に優しい都市**を目指そう！
- ・標語： 縦の繋がり・横の広がり充実した、誰もが**安心・安全を実感できる都市**を目指そう！
- ・標語： 充実した教育情報を誰もが共有できる、**情報発信の都市**を目指そう！

第2分科会では、これまで【子育て・教育】と言う観点から、**受益者を『市民』・サービス提供者を『行政』**と捕らえ、対象者を「未就学児」「学齢時期」「社会人（現役世代）」「社会人（高齢者世代）」に分類し、各世代が如何に楽しく参加しやすい講座（教室）を企画・運営出来るかについて、『**協働**』と言う形で検討してきた。

対象者	施策の例
未就学児	ブックスタート、子育てサロン、遊びの広場、お話し会、園児と高齢者の交流会、障害児の会、等等
学齢時期	体験学習塾、放課後子ども塾、きらっとスマイル、長期休業中の子どもの居場所づくり、夏休みボランティア講座、ジュニア司書養成講座、防犯・防災講座、等等
社会人（現役世代）	親子教室、街コン等のイベント開催、子育てサロン、健康講座、等等
社会人（高齢者世代）	健康教室、お茶のみサロン、ボランティア講座、園児と高齢者の交流会、等等

上記の企画を実際に継続して運営していくには、行政と市民のパイプ役として『コーディネータ』が重要であると考えた。



コーディネータの人数確保と育成が急務。
しかし、それぞれのコーディネータの資質により、サービスに差が出てくる可能性がある。



行政とコーディネータが一同に介して、『情報交換の場』が必要であると考えた。

★八街市協働のまちづくりのアイデア

(1) 地域における取り組み方法 『人材と場所の提供』

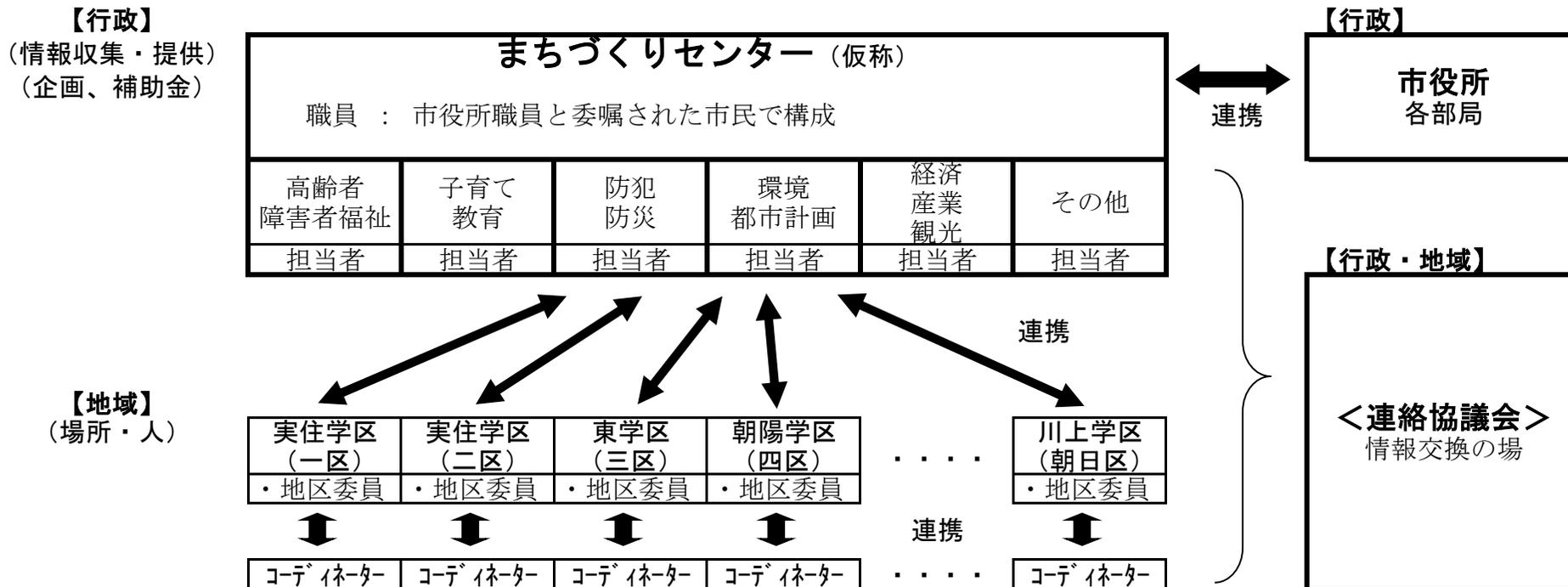
- ・各々の地域の人達が活動参加することで、継続的な運営に繋がる。
- ・コミュニティセンターだけではなく、工場（倉庫）の空き地や空き店舗、店舗の空きスペースなどを有効活用する。

(2) 行政における取り組み方法 『情報の収集と発信』『企画』『資金（補助金）』 ← 受益者負担が基本

- ・人気のある企画（行事）だけではなく、市民の要望を取り入れて実施するには、情報の収集と発信は必要不可欠である。
- ・行政の担当者は、各部局との調整役も担わなければならない。
- ・運営資金は受益者負担が基本であるが、費用面での補助は不可欠であり、収支管理も重要と考える。

(3) 市民と行政との関係を充実させる方法 『まちづくりセンター（仮称）の設置』

- ・地域と行政が連携した、情報交換の場が必要である。
- ・他部局の同一業務やセンターの業務が埋没する事を避けるため、センターの設置にあたっては、権限や分掌などに十分な留意を払わなければならないと考える。
- ・センター職員は、『協働』を意識して市職員と市民で構成することが良いと考える。
従って、市職員は他課との兼務ではなく専従とし、市民はボランティアの意味合いから非専従とする。



<今後における検討課題>

- ★既にある各学校区の『学区連絡協議会』を活用してはどうか？
(今までの『学区連絡協議会』は、学校支援の立場。 ⇒⇒⇒ 学校支援も含んだ地域支援の立場に！)
- ★既にある各地区の『社会福祉協議会』を協働の立場に持って行ったらどうか？
(一部の役員のみ。 ⇒⇒⇒ 多くの市民参加型へ！)
- ★時間預託制度や地域通貨について、積極的に検討してはどうか？